

WebSAM vDC Automation Media v7.0

リリースメモ

第1版
2020年4月

日本電気株式会社
RWT00WN800001-1

免責事項

本書の内容はすべて日本電気株式会社が所有する著作権に保護されています。

本書の内容の一部または全部を無断で転載および複写することは禁止されています。

本書の内容は将来予告なしに変更することがあります。

日本電気株式会社は、本書の技術的もしくは編集上の間違い、欠落について、一切責任を負いません。

日本電気株式会社は、本書の内容に関し、その正確性、有用性、確実性その他いかなる保証もいたしません。

商標

- SigmaSystemCenter、WebSAM、iStorage、ESMPRO、EXPRESSBUILDER、EXPRESSSCOPE、SIGMABLADe は日本電気株式会社の登録商標です。
- VMware は、米国およびその他の地域における VMware, Inc. の登録商標または商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Server、Windows Vista、Internet Explorer、SQL Server、Hyper-V および Azure は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Linux は Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Red Hat は、Red Hat, Inc. の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Intel、Itanium は、Intel 社の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Apache、Apache Tomcat、Tomcat は、Apache Software Foundation の登録商標または商標です。
- Oracle、Solaris、Java、WebLogic は、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。
- F5、F5 Networks、F5 のロゴ、および本文中に記載されている製品名は、米国および他の国における F5 Networks, Inc の商標または登録商標です。
- PostgreSQL は、PostgreSQL の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Amazon、AWS、Amazon Elastic Compute Cloud は、Amazon.com, Inc. の米国および各国での商標または登録商標です。

その他、本書に記載のシステム名、会社名、製品名は、各社の登録商標もしくは商標です。なお、[®]マーク、[™]マークは本書に明記しておりません。

輸出する際の注意事項

本製品（ソフトウェアを含む）は、外国為替及び外国貿易法で規定される規制貨物（または役務）に該当することがあります。その場合、日本国外へ輸出する場合には日本国政府の輸出許可が必要です。なお、輸出許可申請手続にあたり資料等が必要な場合には、お買い上げの販売店またはお近くの当社営業拠点にご相談ください。

はじめに

日頃より弊社製品をご愛顧いただきありがとうございます。このたび、貴社でご利用いただく、『WebSAM vDC Automation Media』について説明させていただきます。

目次

第 1 章 WebSAM vDC Automation について	1
1.1 製品内容	2
1.2 新機能・改善内容	4
1.2.1 新機能	4
1.2.2 改善内容	5
1.3 コンポーネント	6
第 2 章 メディア構成	8
2.1 ディレクトリ構成	9
2.2 製品ドキュメント(/doc)	9
2.3 SigmaSystemCenter,SECUREMASTER 以外の各コンポーネントのインストーラ(/fw) ..	9
.....	
2.4 vDC Automation 統合インストーラ(/install)	10
2.5 コードワード申請フォーム(/licenseform)	10
2.6 ライセンス条文(/oss_license)	10
2.7 サンプルスクリプト(/script)	10
2.8 SECUREMASTER インストーラ(/securemaster)	10
2.9 SigmaSystemCenter インストーラ(/ssc)	10
2.10 トポロジテンプレートオーケストレータ関連(/vDCA_TTO_option)	11
第 3 章 動作環境	12
第 4 章 ライセンスについて	13
4.1 ライセンスキーについて	14
4.2 ソフトウェアライセンス情報について	14
第 5 章 注意・制限事項	15

表目次

表 2-1	コンポーネント名とドキュメント格納場所.....	9
-------	--------------------------	---

第1章

WebSAM vDC Automationについて

目次

1.1 製品内容	2
1.2 新機能・改善内容	4
1.3 コンポーネント	6

1.1 製品内容

WebSAM vDC Automation は、クラウドシステムにおけるデータセンターのインフラ管理を実現するソフトウェアです。

ヒント

初めてご利用になる方は、『vDC Automation Standard Edition セットアップガイド』、『vDC Automation ファーストステップガイド』もご一読ください。

vDC Automation Standard Edition

vDC Automation Standard Edition で実現可能な機能は以下の通りです。

- リソース管理

vDC Automation の構成コンポーネントである SigmaSystemCenter の機能に対して、vDC Automation Standard Edition ポータルを通して以下のようなことができます。

- 仮想サーバ利用申請（リクエスト）の管理
- リソース利用状況の確認
- 仮想サーバの電源操作
- サービスプロバイダからテナントへの通知（ダッシュボード機能）
- テナント/ユーザの管理機能
- ハイブリッドクラウドの管理
- マルチデータセンタ連携機能
- カスタムオペレーションの実行^{*1}

- 監視

vDC Automation の構成コンポーネントである SystemManager G の機能に対して、vDC Automation Standard Edition ポータルを通して以下のようなことができます。

- サーバの監視設定
- サービスプロバイダからテナントへの通知（ダッシュボード機能）
- テナント/ユーザの管理機能
- マルチデータセンタ連携機能
- カスタムオペレーションの実行^{*1}

^{*1} ジョブ管理ソフトウェア『WebSAM JobCenter』と連携することも可能です

vDC Automation

vDC Automation では、次の機能を実現できます。

- リソースプール管理

保有する IT インフラ（ネットワーク、ストレージ、サーバ）を共有リソースとして一元管理します。管理された共有リソースは、サービス利用者からのリクエストに応じて適切に割り当てることができます。

- オーケストレーション／プロビジョニング

サービス利用者からのリクエストに応じて、テンプレートからの仮想マシン生成、ネットワーク設定、ストレージ割当、ミドルウェアのインストールといった必要なプロセスを、ワークフローに沿って逐次実行します。また、検証済みのワークフローを提供しており、カスタマイズを含む SI コストを削減することができます。

同一 DataCenter(DC)内において OpenFlow 技術を活用することで、異なる VLAN を 1 つの巨大なネットワークセグメントとして扱うことが可能となり、物理リソースの諸元を意識することなく、IaaS 利用者の要求に応じて仮想サーバの派出しが可能になります。

- リソース制御

仮想マシンの操作指示を行うメニューを提供します。仮想マシンの起動、停止、バックアップ（スナップショット）作成、リストア指示が可能です。

- モニタリング

仮想マシンの利用状況（CPU、メモリ等）の情報を収集／蓄積します。蓄積した情報は CSV 出力し、課金の元情報などに活用することができます。

- ソフトウェアリポジトリ

事業者が各テナント向けに提供するテンプレート、OS イメージ、ミドルウェア、パッチを一元的に管理し、運用コストを削減することができます。複数の管理サーバ間で共有して利用することもできます。

- 統合 ID 管理

データセンター内の様々な ICT リソースを適切なユーザが適切な機能範囲で利用するためには、個々に認証、認可の仕組みが必要です。サービスポータルに登録したユーザを一元的に管理し、運用管理機能、各ネットワーク機器と連携することで、統一されたログインアカウントでの運用が可能です。運用管理機能、各ネットワーク機器に個別にユーザ登録、権限の設定を行う必要がなくなり、管理コスト、運用コストの削減ができます。

- 大規模対応

管理サーバを階層化することで、数万の大規模な仮想マシンの管理が可能になります。

- 物理マシンのプロビジョニング

vDC Automation がテナントに払い出すリソースとして、仮想基盤上の仮想マシンだけではなく、物理マシンを扱うことができます。既存の物理マシンの有効利用ができます。

- テナントネットワークの可視化

払い出したテナントネットワーク（各種 VLAN、テナントファイアウォール、ロードバランサ等）と、そのネットワークに配置されたサーバの論理構成図が、vDC Automation によって自動で作成され、確認できます。レイアウトを自由に編集、保存することもできます。

Network Automation

vDC Automation からネットワークオーケストレーションに限定した Network Automation で実現可能な機能は以下の通りです。

- リソース管理

仮想ロードバランサ、仮想ファイアウォールなどの仮想アプライアンスや、IP アドレス、VLAN ID 等のネットワークリソースをプール化します。プール単位で、リソースの総量、使用量、未使用量、予約済み量などを管理可能です。

- オーケストレーション、プロビジョニング

L2 スイッチ、ファイアウォール、ロードバランサの VLAN 割当て、フィルタのポリシー設定、ユーザ認証設定など、業務利用に必要な一連のネットワーク設定を自動化します。OpenFlow 技術を活用した「UNIVERGE PF シリーズ」との連携により、複数のデータセンター間のネットワークプロビジョニングの自動化が可能です。

- 統合 ID 管理

vDC Automation 同様に対応しています。

- テナントネットワークの可視化

vDC Automation 同様に対応しています。

1.2 新機能・改善内容

1.2.1 新機能

WebSAM vDC Automation Standard Editionv7.0 の新機能は以下の通りです。

- インストーラ

- Ansible(構成管理ツール)向けの構築用 Playbook を同梱しました。

- ポータル

- ハイブリッドクラウド連携^{*1*2}

NEC Cloud IaaS HA/STD-Plus、Amazon Elastic Compute Cloud に加え、Microsoft Azure のインスタンス管理が可能になりました。

- カスタムオペレーション

ジョブ実行(JobCenter 連携^{*3} に加え、任意のコマンド実行が可能になりました。

カスタムオペレーションの実行対象として、作成した汎用サービスインスタンスを指定できるようになりました。

- 汎用サービス基盤

定義情報をポータルにインポートすることで、外部システムが提供する任意のサービスと連携できるようになりました。

連携したサービスにライフサイクルが存在する場合、汎用サービスインスタンスとして管理することができます。

- データベース

DBMS として PostgreSQL を選択できるようになりました。

- 外部インターフェース

一部機能について、REST API での制御が可能になりました。

一部機能について、コマンドでの制御が可能になりました。

- プラットフォーム

- Windows Server 2019 をサポートしました。

*1 SigmaSystemCenter の VM ホストソケットライセンスを購入していただく必要があります。

*2 対象のパブリッククラウドにより、対応機能が異なります。 詳細は、『vDC Automation Standard Edition ポータル利用者マニュアル(リソース管理編)』の『1.1.7 ハイブリッドクラウド管理』をご参照ください。

*3 JobCenter は本製品に同梱しておりません。別途、準備していただく必要があります。

1.2.2 改善内容

WebSAM vDC Automation Standard Editionv7.0 の主な改善内容は以下の通りです。

- ポータル

- より使いやすく機能的なデザイン(UI)に刷新しました。
- 任意のコマンドを呼び出せる拡張処理の実行タイミングが増えました。
- サーバ作成リクエストの承認時に、リクエスト内容を変更できるようになりました。
- サーバが所属する業務グループを変更できるように改善しました。
- 指定した業務グループに所属するサーバを一覧表示できるように改善しました。
- 物理サーバも管理できるように改善しました。

- サーバの拡張ディスク作成先として RDM(Raw Device Mapping)に対応しました。
- Active Directory (LDAP サーバ) 上のユーザとポータルのユーザを同期できるように改善しました。

1.3 コンポーネント

vDC Automation Standard Edition

vDC Automation Standard Edition は以下のコンポーネントから構成されます。

- 必須コンポーネント
 - vDC Automation ポータル
 - SigmaSystemCenter (プラットフォーム管理)
- オプション
 - SystemManager G (サーバ監視)
 - Topology Template Orchestrator
 - JobCenter^{*1}

*1 本メディアには同梱しておりません。

vDC Automation

vDC Automation は以下のコンポーネントから構成されます。

- 必須コンポーネント
 - SigmaSystemCenter (プラットフォーム管理)
 - SystemManager G (統合運用監視、サーバ監視)
 - NetvisorPro V (ネットワーク監視)
 - AssetSuite (資産管理)
 - vDC Automation ポータル
- オプション
 - SystemManager G (性能分析、ミドルウェア監視)
 - SECUREMASTER (ID 管理)

Network Automation

WebSAM Network Automation は以下のコンポーネントから構成されます。

- 必須コンポーネント
 - SystemManager G (統合運用監視、サーバ監視)
 - NetvisorPro V (ネットワーク監視)
 - vDC Automation ポータル
- オプション
 - SECUREMASTER (ID 管理)

コンポーネント毎にインストーラの格納場所が異なっているため、「[第2章 メディア構成 \(8 ページ\)](#)」および『vDC Automation インストレーションガイド』、『vDC Automation Standard Edition セットアップガイド』、『Network Automation インストレーションガイド』に記載の内容をよくご確認ください。また、各コンポーネントに関する説明は『vDC Automation ファーストステップガイド』をご参照ください。

第2章

メディア構成

目次

2.1 ディレクトリ構成.....	9
2.2 製品ドキュメント(/doc)	9
2.3 SigmaSystemCenter,SECUREMASTER 以外の各コンポーネントのインストーラ(/fw).....	9
2.4 vDC Automation 統合インストーラ(/install).....	10
2.5 コードワード申請フォーム(/licenseform)	10
2.6 ライセンス条文(/oss_license)	10
2.7 サンプルスクリプト(/script).....	10
2.8 SECUREMASTER インストーラ(/securemaster).....	10
2.9 SigmaSystemCenter インストーラ(/ssc)	10
2.10 トポロジテンプレートオーケストレータ関連(/vDCA_TTO_option)	11

2.1 ディレクトリ構成

WebSAM vDC Automation Media は 1 枚の DVD で構成されており、そのディレクトリ構成は以下の通りです。

[Root]		製品 ドキュメント
- doc		SigmaSystemCenter, SECUREMASTER 以外のインストーラ
- fw		vDC Automation 統合インストーラ
- install		コードワード申請フォーム
- licenseform		ライセンス条文
- oss_license		サンプルスクリプト
- script		SECUREMASTER インストーラ
- securemaster		SigmaSystemCenter インストーラ
- ssc		トポロジエンプレートオーケストレータ関連
- vDCA_TTO_option		WebSAM vDC Automation Media リリースメモ (本書)
- vDCA_Relememo.pdf		バージョン番号
- version.txt		

2.2 製品 ドキュメント(/doc)

WebSAM vDC Automation および、各コンポーネントのマニュアルが配置されています。

表 2-1 コンポーネント名とドキュメント格納場所

ディレクトリ名	コンポーネント名
doc	製品全体
doc/AssetSuite	AssetSuite
doc/Common	Service Governor WebAPI Base Option
doc/NvPro	NetvisorPro V
doc/NWA	Network Automation
doc/Portal	vDC Automation ポータル
doc/SE	vDC Automation Standard Edition
doc/SecureMaster	SECUREMASTER
doc/SecureMonitor	AssetSuite
doc/ssc	SigmaSystemCenter
doc/SysMgrG	SystemManager G
doc/vDCA_TTO_option	トポロジエンプレートオーケストレータ

2.3 SigmaSystemCenter, SECUREMASTER 以外の各コンポーネントのインストーラ(/fw)

MCOperations、NetvisorPro V、AssetSuite のインストール物件が配置されています。通常は、上記の vDC Automation 統合インストーラを利用してインストールします。具体的なインストール方法については『vDC Automation インストレーションガイド』をご参照ください。

2.4 vDC Automation 統合インストーラ(/install)

vDC Automation 各機能のインストール物件が配置されています。具体的なインストール方法については 『vDC Automation インストレーションガイド』、『vDC Automation Standard Edition セットアップガイド』、『Network Automation インストレーションガイド』をご参照ください。

2.5 コードワード申請フォーム(/licenseform)

MCOperations、NetvisorPro V、AssetSuite に登録するライセンスのコードワードを申請するフォームを格納しています。詳細は本書の [「第4章 ライセンスについて \(13 ページ\)」](#) をご参照ください。

2.6 ライセンス条文(/oss_license)

vDC Automation で利用するオープンソースソフトウェア等のライセンス条文を格納しています。

2.7 サンプルスクリプト(/script)

クラスタ環境に必要なサービスの起動/停止のサンプルスクリプト、サイレントインストールコマンドや構築自動化コマンドなどを格納しています。

2.8 SECUREMASTER インストーラ(/securemaster)

SECUREMASTER のインストール物件が配置されています。通常は、上記の vDC Automation 統合インストーラを利用してインストールします。具体的なインストール方法については 『vDC Automation インストレーションガイド』をご参照ください。

2.9 SigmaSystemCenter インストーラ(/ssc)

SigmaSystemCenter のインストール物件が配置されています。通常は、上記の vDC Automation 統合インストーラを利用してインストールします。具体的なインストール方法については 『vDC Automation インストレーションガイド』をご参照ください。

2.10 トポロジテンプレートオーケストレータ関連(/vDCA_TTO_option)

トポロジテンプレートオーケストレータの関連ファイルが配置されています。具体的な利用方法については『トポロジテンプレートオーケストレータ利用ガイド』をご参照ください。

第3章

動作環境

WebSAM vDC Automation、WebSAM Network Automation の対応プラットフォームおよびシステム要件については、『vDC Automation ファーストステップガイド』の『第6章 動作環境／システム要件』をご参照ください。

第4章

ライセンスについて

目次

4.1 ライセンスキーについて	14
4.2 ソフトウェアライセンス情報について	14

4.1 ライセンスキーについて

WebSAM vDC Automation、WebSAM Network Automation を利用するには複数のライセンスキーを登録する必要があります。

各インストレーションガイドに記載された手順でのライセンス登録と、本製品に添付されている『ソフトウェアライセンスキー』に記載されたライセンスキーの登録を行ってください。また、ライセンス登録時に「コードワード」の入力が必要となります。コードワードが入力されない場合、ライセンスは登録後1ヶ月間で無効になります。

コードワードはvDC Automation管理サーバ単位に発行いたします。本製品に添付されている『コードワード申請書』を申請書に記載されている宛先まで送付してください。詳細は申請書の記載内容をご覧ください。コードワード申請書はインストールDVD中の以下のディレクトリにExcel形式のファイルとして格納されています。

<インストールDVD>:\licenseform\CodewordRequestForm.xls

4.2 ソフトウェアライセンス情報について

本製品では当社が権利を有するソフトウェアの他に、オープンソースソフトウェア等を利用しています。利用しているソフトウェアのライセンス情報はインストールDVD中の以下のディレクトリに格納されています。

<インストールDVD>:\oss_license

第5章

注意・制限事項

vDC Automation v7.0 での注意・制限事項については、『vDC Automation コンフィグレーションガイド』の『第1章 vDC Automation のシステムライフサイクル』、『5.1 注意事項』、『7.1 注意事項』、『15.1 注意事項』や『vDC Automation ポータル利用者マニュアル』などにも各機能の注意事項を記載しておりますので、参照してください。

- 制限事項

なし

- 注意事項

- シナリオが同時実行され、先行シナリオに対し複数のシナリオが待ち合わせをする場合、先行シナリオ終了後に呼び出される次のシナリオは、待ち合わせを開始した順序には依存しません。このため、厳密にシナリオの実行順序が守られる必要がある場合、先のシナリオが正常終了したことを確認した上で、後続のシナリオを実行する必要があります。
 - シナリオが同時実行され、先行シナリオの完了を後続シナリオが待ち合わせる場合に、後続シナリオの完了時間が先行シナリオの処理時間分遅くなることがあります。シナリオ実行の完了を待ち合わせるタイムアウト値を設ける場合は、この処理時間を考慮した値を設定する必要があります。なお、NW系のシナリオがVM系のシナリオを待ち合わせるケースがあるため、NW系のシナリオでもVM系の処理時間を考慮した値をタイムアウト値として設定してください。
 - 「DC リソースビュー」配下を設定後、下記設定ファイルの認証方式の変更は行わないで下さい。
- <インストールフォルダ>\Manager\sg\RpResource\RpResourceMgr.ini
- 物理サーバ作成時のカテゴリには"Gold","Silver","Bronze"などを指定します。指定されたカテゴリを、物理サーバ作成の入力の「クラスタグループ名」部分に設定して、作成処理を行います。
 - テナントFWとして利用するFW装置にFortiGateを使用する場合、装置仕様により、FW装置名は11文字以内でなければなりません。そのため、テナントFW命名規則に<Count>を使用する場合には、置換された後のFW装置名の文字数が11文字以内に収まるように指定する必要があります。
 - 物理サーバをVLAN拡張されていないリソース管理グループに作成する場合、事前にテナントFWまたはテナントLBを作成しておく必要があります。
 - 共通グループ作成時に選択しなかったVLANは、共通グループ配下の管理グループ作成時に選択できないため、将来的に作成する可能性があるVLANも含めて共通グループを作成してください。

- 強制削除コマンド(nwa_devconfdelete.bat)は、以下のネットワーク機器にサポートしております。
 - * Network Coordinator UNIVERGE PF6800 Network Coordinator
 - * Fortinet FortiGate
 - * F5 BIG-IP
 - * A10 Thunder
 - * VMware vSphere Standard Switch(標準スイッチ)
 - * VMware vSphere Distributed Switch(分散仮想スイッチ)
- vDC Automation の WebAPI の SSL のデフォルトプロトコルは、SSLv3 から TLS へ変更になります。
- 管理サーバの監視端末上のネットワークビュー配下の装置について、アイコンタイプが「UNC」のノードはインポート/エクスポートできません。インポート先の環境で改めて設定を行ってください。

WebSAM vDC Automation Media v7.0

リリースメモ

RWT00WN800001-1

2020年4月第1版発行

日本電気株式会社

©NEC Corporation 2012-2020